

# 優良農家の紹介

## 但馬牛の繁殖から肥育そして販売

養父市の太田克典さん（34才）は、1989年に父母が行っている和牛肥育経営に就農した。就農を機に肉用牛一貫経営モデル事業を活用して50頭規模の繁殖牛舎を建築し、繁殖雌牛を導入、繁殖肥育一貫経営をはじめた。2001年には経営移譲を行い、現在、克典さん、妻の江利子さん、父母の4人で繁殖雌牛40頭、肥育牛200頭を飼育している。

### 1 優良雌牛群の造成

繁殖と肥育を一貫して行っているため、自家産牛の枝肉成績がいち早くわかる。この強みを活かして枝肉成績の優秀な母牛の雌子牛を後継牛として自家保留し、優良雌牛群の造成を行っている。さらに、1996年からは受精卵移植を取り入れ、改良速度を早めている。このことにより、県有種雄牛も出している（光安土井、光照土井、光菊波等）。

### 2 低コストを図るため放牧を導入

1998年に養父市葛畑にある里山8haを放牧場として整備し、2戸で利用している。放牧は、妊娠鑑定が済んで、離乳ができた母牛を7月～10月頃まで放牧している。放牧することにより、飼料費の低減やふん尿処理などの作業軽減、牛の健康増進を図っている。



繁殖雌牛は葛畑放牧場（養父市）で放牧

### 3 徹底した飼養管理による肉質の高位安定

給餌前後には必ず飼槽の掃除を行いながら牛の観察を行い、残飼の量や健康状態を把握し、飼料給与方法を決めている。暑熱対策や臭気対策など飼育環境についても気を配り、牛にとっていつも居心地の良い状態を作っている。

この徹底した管理により、主に出荷している神戸西部市場の枝肉共励会において多数上位入賞を果たしている。昨年度の出荷成績は、77頭出荷し上物率（A4-7以上）は61%（県平均25.9%）と県下でもトップクラスの成績を取っている。

### 4 直営店がオープン

1999年3月に精肉販売店で働いていた弟が独立して神戸市内で精肉販売店「太田家」を開店し、2003年9月には有限会社を設立した。これにより、牧場で生産した牛を直接消費者に販売するシステムができた。店に訪れる消費者やレストランなどからは「牧場直営なので安心しておいしい但馬牛の肉が購入できる」と好評を得ている。

喜多 洋元（八鹿農業改良普及センター）



きめ細かい飼養管理で育てた但馬牛

ひょうごの農林水産技術 No.136

平成16年11月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）